

DX推進企画書  
Digital Transformation Promotion Plan

2024年12月1日

⑤ 岡谷酸素株式会社

# 1. DX化の方針

1933年に高圧ガスの製造販売を始めて以来、長野県を中心に各都道府県においてガスをベースとする「総合テクニカル商社」として様々な分野に事業を展開しております。地域の暮らしと産業をより豊かに、より安全にすることを大きなテーマに掲げ、今までに培われた独自の技術、ノウハウ、提案力を『付帯価値』と捉え、これをガスや設備機器、工事、サービスにプラスしてお客様に提供し、評価を頂いております。

しかし昨今のデジタル技術が大きく進歩したことにより、環境の変化に対応して柔軟に対応することが、お客様の信頼・安心に繋がり、しいては会社を成長させるうえで必要不可欠な事柄であると感じております。

今後継続的にお客様の信頼・安全を獲得し、会社を成長させるためにデジタル技術への投資を行い、ガスをベースとする「総合テクニカル商社」のリーディングカンパニーとなるようデジタル技術の活用、ステークホルダーとの関係強化を行い、ガバナンスの強化に努めてまいります。

DX推進体制を発足して短期計画から長期計画を策定して円滑に進められるように取り組んで参ります

代表取締役社長 野口 博一

## 2. 現状の課題

岡谷酸素株式会社では、ガスをベースとした「総合テクニカル商社」として、様々な業種・業態に適合させるため、多くのシステムについてカスタマイズを行い自社の業務運用に適したシステムを構築してきました。

その結果、既存のシステムが複雑化され一部ブラックボックス化が発生しており、業務効率の悪化を招いております。

また業務面においても I T システム技術が生かせていないこともあり、仕事の効率化が図れておりません。

上記課題を念頭におき、I T システム技術の最新情報を活用し、企業競争力を高める必要があると認識しております。

### 3. DX化の推進計画

#### 短期計画 (2025年～2026年)

- レガシーシステムの脱却を図る為、拡張性・柔軟性を重視した基幹システムの再構築を行い、システム全体の最適化を図る。
- 新ERPパッケージと新LPパッケージを導入連携、各システムの最適な活用により、管理面の厳格化を図る。
- 帳票の電子化、ペーパーレス化を行い、情報のデジタル化、業務の効率化、経費削減を図る。

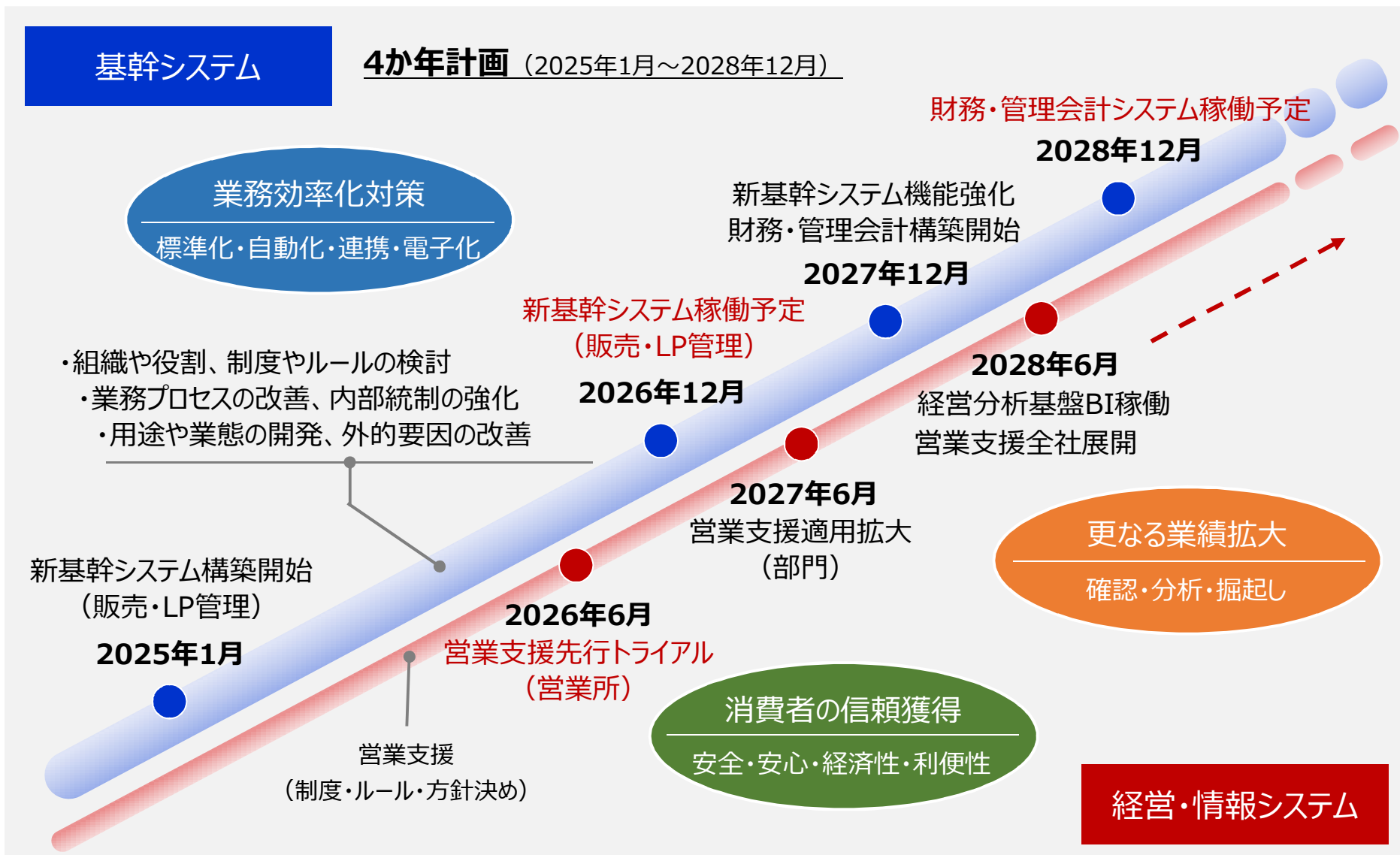
#### 中期計画 (2027年～2028年)

- 営業支援パッケージを導入しERPパッケージと連携する事でより詳細なお客様管理（案件管理など）を可視化し、BIツールを用いて分析を行う。市場環境に迅速に対応する事で企業力の強化を図る。
- 管理会計オプションを導入し数字の可視化を実現し、スピーディな経営判断ができる状態を構築する。

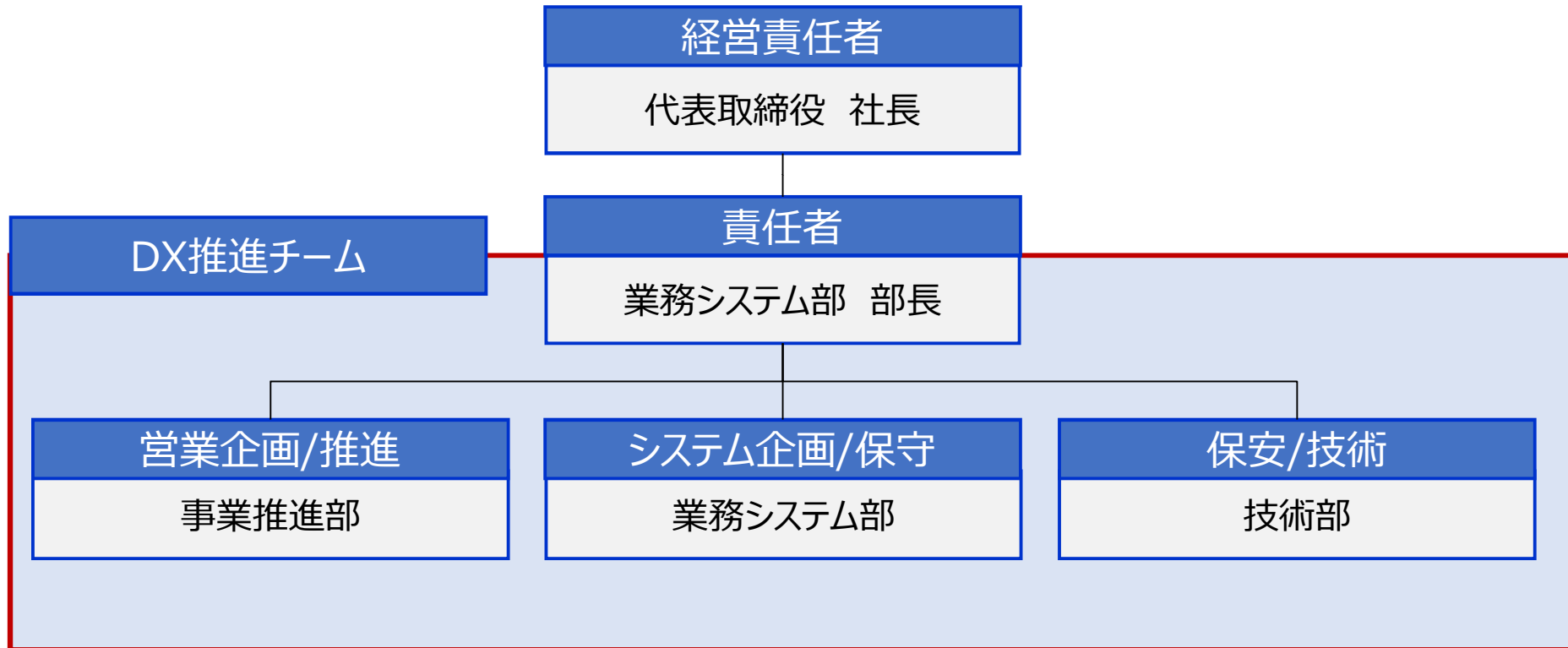
#### 長期計画 (2029年～2030年)

- 先端技術(AI)を活用して、お客様に安心・安全でより良いサービスを提供できる企業になる。

# 4. DX推進化のロードマップ



## 5. DX化の推進体制



- 代表取締役社長を最高責任者、業務システム部長をDX推進チームの責任者として、3つの部門間の連携強化を行い、1つの組織としてDX化に取り組んでいきます。
- 全社員のITリテラシーの底上げを行うために、ICT環境の整備、社外研修の受講を行い、ITリテラシーの向上を推進します。

# 6. DX化による経営強化に向けた基盤整備

岡谷酸素株式会社 総合テクニカル商社 共に学び、共に働き、感謝と祈り

mission

業務効率化対策  
標準化・自動化・連携・電子化

消費者の信頼獲得  
安全・安心・経済性・利便性

更なる業績拡大  
確認・分析・掘起し

生産性向上 DX

業務効率化  
販売 保安  
売掛 WEB

DX  
ロボット 実績 配送  
[Robot icon] [Wi-Fi icon] [Truck icon]

ビジネス拡大 DX

新製品創出  
デバイス 部品 通信  
[Chip icon] [Gears icon] [Antenna icon]

新サービス創出  
アプリ クラウド 監視  
[Phone icon] [Cloud icon] [Person icon]

DX基盤 (岡谷酸素プラットフォーム)

データ収集 → データモデル → 見える化 → 分析・予測 → AI → 人材・ノウハウ マッチング

[Database icon] [Database icon] → [Laptop icon] [Bar chart icon] [AI head icon] [Network icon] [Crosshair icon]

## 7. DX化に対する戦略

### ❑ 業務効率化対策

業務の見直しを行い標準化を行う。自動化、データ連携、電子化を推進し、業務効率化を図る。

### ❑ 消費者の信頼獲得

デジタル技術を活用し、ガス消費を安心・安全な環境を継続し維持する。データを数値化（可視化）することで、経済性や利便性を図る。

### ❑ 更なる業績拡大

データを活用し市場変化や消費者の動向などの分析を行い、ビジネス競争力を強化させる。

### これにより

### ❑ デジタル技術を応用し、ガバナンスの強化を実施

#### ❑ 短期指標

2026年迄に基幹システムをEPRII<sup>®</sup>パッケージ刷新し、2024年度比較して労働生産性5%向上を目指す。

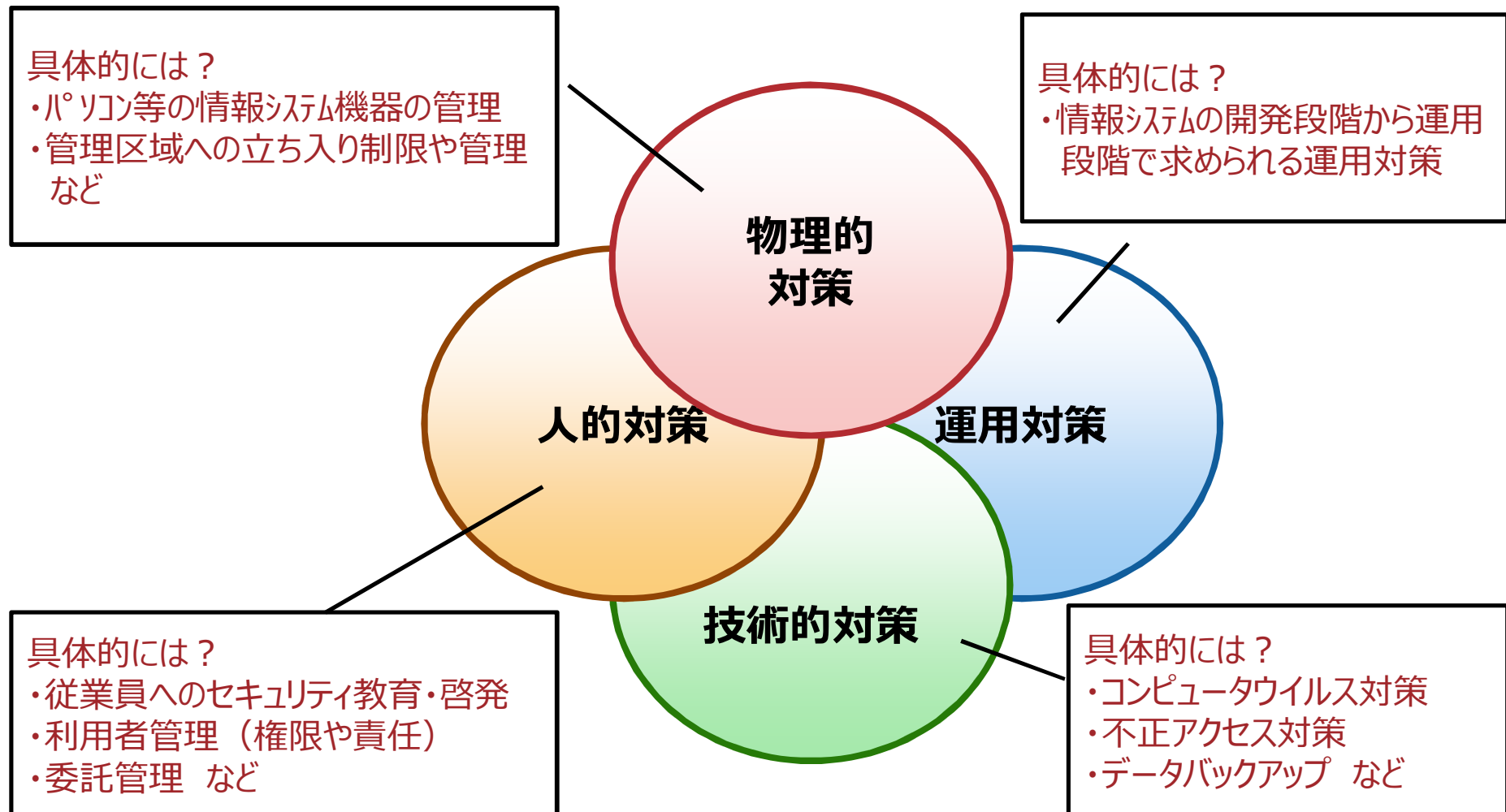
#### ❑ 中期指標

2028年迄に営業支援パッケージ導入し、2024年比較して労働生産性10%向上を目指す。



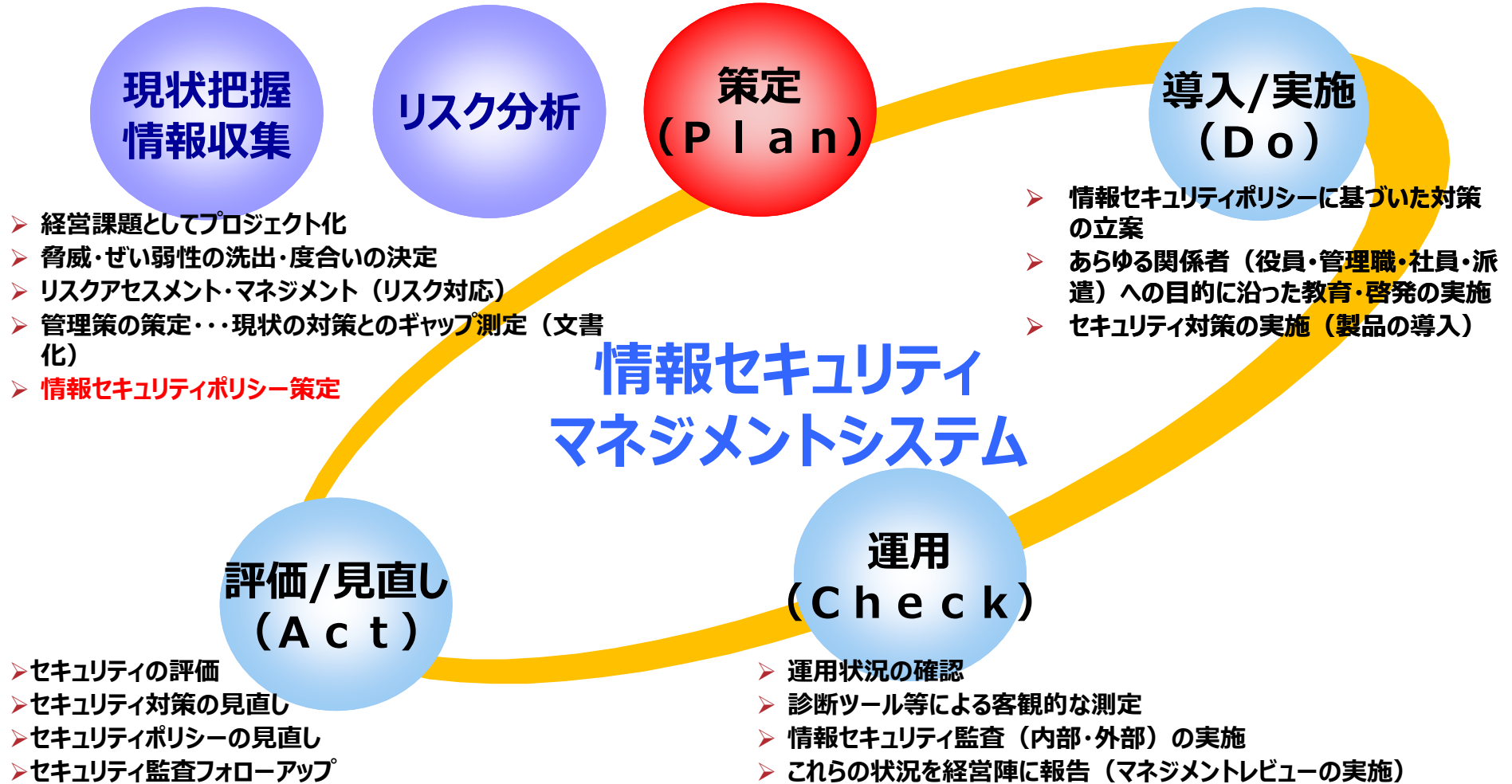
## 8. 情報セキュリティ対策のポイント

□情報セキュリティを守るためには、4つの観点からバランス良く実施することが重要となります。



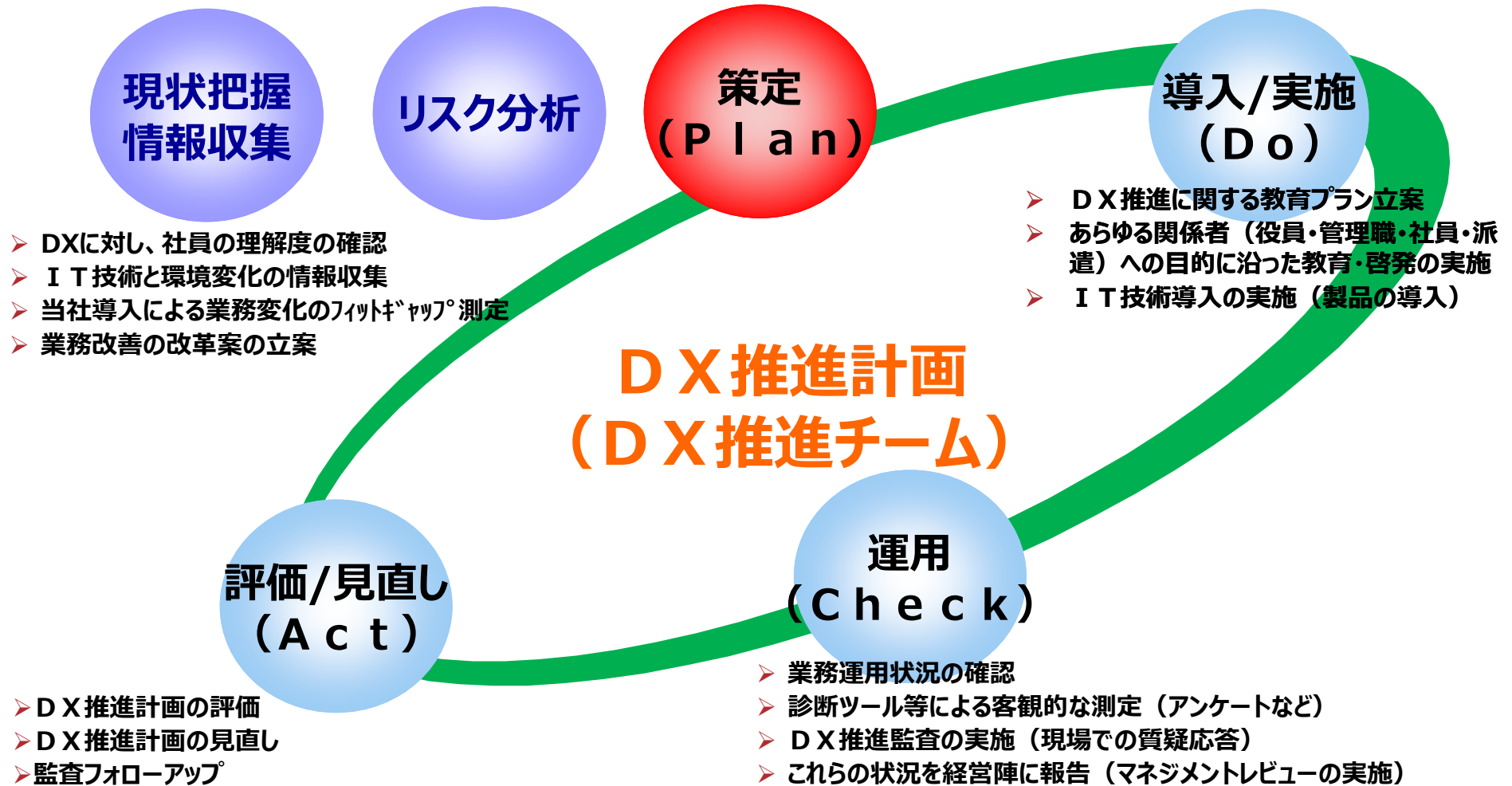
# 9. 情報セキュリティ対策の継続性

- 情報セキュリティ対策を継続するにあたり、組織のよりどころが必要。  
P D C A 基盤となるセキュリティポリシーを遵守していく。



# 10. IT人材育成の取組み

- IT人材育成への取組みは継続性が必要。  
PDCA基盤となるDX推進計画に基づき取り組む。



# 1 1. 今後のビジョン



当社の事業分野において、省エネ・高環境性能・脱炭素がキーワードとなっており、より効率的なエネルギーのベストミックスを提案することが求められています。

また、世の中に利便性を提供すればそれだけ、ガスを扱う者として「見えないものへの心配り」がより高いレベルで要求されます。

便利さと危険は紙一重であることを常に肝に銘じ、ガスをベースとした総合テクニカル商社としての更なる発展を目指しています。